

2024 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [鈴木 凱陽]

学年・組・番号 [2 年 F 組 34 番]

研究課題： 宮崎県西米良村における投票行動についての考察
—投票意識・地域コミュニティ・行政の取り組みに着目して—

（英文） A study of voting behavior in Nishimera Village, Miyazaki Prefecture
—Focusing on voting awareness, local community, and government initiatives—

研究概要：

（研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください）

近年の日本において、慢性的な投票率の低下が問題視されている。直近の国政選挙では、衆議院議員総選挙での投票率が 53.85%、参議院議員通常選挙での投票率が 52.05%となっており、近年の投票率は、衆議院議員総選挙において 70%前後を維持していた 1980 年代までに比べ、低下傾向にある。そのような現状の中、投票率が 9 割前後と高水準で推移しており「投票率日本一」を掲げる宮崎県西米良村に着目し、研究対象とした。本研究では、宮崎県西米良村において投票率が高い要因について、村民の投票意識・地域コミュニティ・行政の取り組みに焦点をあてて、それぞれの視点から考察することを目的とした。

研究手法についてだが、まず西米良村で行われている地域活動の実態や、西米良村における投票参加促進に関する取り組みなどを調査し、先行研究を踏まえたうえで問題を検討した。次に西米良村役場でのヒアリング調査、西米良村での現地踏査を行った。それらをもとに、西米良村における投票率が高い要因について分析した。それらをもとに、西米良村における投票率が高い要因について分析した。

研究成果：

（研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください）

村が行っている投票率向上に向けた取り組みや地域活動について把握するため、西米良村役場において村の担当者にヒアリング調査を行った。また、村の地域特性や村民の投票意識について理解を深めるために現地踏査を行った。その結果として、村が主体となって積極的に投票率向上に向けて取り組んでいる点、村民の投票意識が極めて高い点、地域特性より密接な地域コミュニティが形成されていることから地域活動が活発となっており、共助によって投票参加が促進されている点が明らかとなった。そのうえで、以上の 3 点が投票率の向上に対して複合的に関与しているのではないかと結論付けた。

研究者：（以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する）

研究代表者 鈴木 凱陽

担当教諭 柿沼 亮介

（受給額： 26,000 円）

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
（次のページに続きます）

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

